



全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 田立 理／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎(03) 3263-0271
ホームページアドレス／<http://zensyokyo.jp/>

皆さま、あけましておめでとうございます
2023年の年頭にあたり
謹んで新年のご挨拶を申し上げます

全国消防職員協議会の会員の皆さまにおかれましては、健やかに新年を迎えられたことお慶びを申し上げます。
さて、皆さんには新型コロナウイルスの感染拡大の予防を図りながら、消防行政の使命である地域住民への安心安全の提供、そして協議会の目的である民主的で働き甲斐のある職場環境の実現に向け日々邁進されていることに敬意と感謝の気持ちをお伝えします。

私は2019年9月に副会長として全消協へ参画して以来一貫して、全消協は単協のために存在するとの理念の下、活動してまいりました。会長として担がれた今でもこの思いは変わっておりません。
皆さん方にしっかりと担いでもらうには、担ぎ手がしっかりと踏ん張れる足場を作ることが最優先と考えています。そのしっかりとした足場を作るためには、皆さんの提言に対し真摯に

耳を傾け、これまでの活動の進捗を振り返りそしてより良く改善していくことが必要不可欠と考えます。
今後、皆さんの足元が不安定になるかもしれない要因として、定年年齢引き上げ制度の導入があります。消防職場は加齢困難職種でもありますので、この制度の導入に対し調査研究を行うため、シンクタンクを立ち上げます。このシンクタンクが皆さん方にとって有意義なものになるようご協

力をお願いします。
新型コロナウイルスの状況、不安定な世界情勢、物価高騰など生活するうえで不安要素は多々ありますが、役員一同前向きに挑戦する覚悟で協議会活動に臨みます。ともに頑張りましょう。
新しい年が、会員やその家族はもとより、地域住民にとっても明るく健やかな一年でありますよう祈念いたします。



全国消防職員協議会
会長 須藤 洋典

全消協第53回労働講座

各講座で関係法令等を学び活発なグループ討議を行う

2022年12月16日(金)、東京・自治労会館で開催し、全国から67単協74名(参集48名・WEB24名・未組織2名)が集まった。

講座の開催にあたり全消協を代表し須藤洋典会長が主催者挨拶と本講座の趣旨を説明。須藤会長は「我々は、当然のこととして住民に安全安心を提供するために、日々の業務、訓練をしている。雇

用側は、我々に対し労務管理・安全衛生管理を徹底してくれているでしょうか?我々の義務、そして雇用側の義務をこの講座を通してしっかりと学んでほしい。この講座が今後の皆さま方の職場環境改善に繋がることを切に願う」と述べた。

と述べた。

【講座Ⅰ 組織強化・拡大】

消防職員協議会になぜ強化が必要か。存続するための強化とともに必要なのが協議するための知識をつける強化であること。管理職を説得するため、管理職がさらに当局に説明する材料を提供できるよう、そして悲願である団結権が回復した時にその力を活用できるよう、私たちは学習し、個人そして組織の力を強化する手法を学んだ。また、未組織職場で横行するハラスメント等の問題解決のためには組織化が必要であり、既存単協も連携して組織率を向上することが重要である。

【講座Ⅱ 労働安全衛生】

現場活動や資機材を含め

た安全管理体制の確立、メンタルヘルス対策を実践するためには、職場全体で理解し取り組むことが重要であり、そのためには常問題意識を持たなければならぬことを学んだ。

【講座Ⅲ 賃金・労働条件】

自分たちが働く職場環境がどのような法的根拠に基づいて規定されているか、基本的な労働基準法をもとに学習。基本となる関係法令や労働条件を職員自らが熟知する必要があることを学んだ。

【講座Ⅳ 財政】

基本的な税の仕組みから地方公共団体と消防財政との関係、基準財政需要額、緊急防災減災事業債、緊急消防援助隊設備整備費補助金等、一般・特定財源について学習した。

【講座Ⅴ 男女平等参画】

育児・介護休業法等の法改正、女性活躍推進について理解を深めた。性別にかかわらず「協力し合って仕事も家庭も大事にする」という考え方を持つ必要があること。そのためには、男性の育児や家事への積極的な参加や女性が働

きやすい環境づくりが重要であることを学んだ。

【講座Ⅵ 国際連帯】

団結権の回復に向けた活動は、国内外を問わず様々なアプローチが必要である。総務省・総務省消防庁との定期協議(ILO議長集約に係る定期協議)は、第107回ILO会において、日本政府への11度目の勧告により、開催されている。総務省消防庁への要請行動、国会議員への消防職場の課題説明など、すべての活動が歯車のように連動している。消協の活動目標・目的の達成に向けた手段と行動の再確認、それらの活動内容については、Plan(計画)、Do(活動)、Check(検証)、Act(改善)のサイクルを回すことにより、活動の質を向上させ、最大限の効果を発揮させる。各単協では実感の湧かない国際連帯活動ではあるが、会員一人一人が全消協活動に参加、参画することで、団結権の回復に向けた大きな力となる。今後も国際連帯を継続し、団結権の回復に向け、全消協活動を推進していくことの重要性を認識することができた。



参加者は真剣な面持ちで話に聞き入り、グループワーク時には活発な議論もなされた。最後に、小野英一副会長が総括として「バタフライ・エフェクト」という理論を引用し、自分自身が身の回りで起こす小さなアクションが、より大きな動きにつながり、結果として大きな変化を社会にもたらす可能性がある。良いことも悪いことに、悪いことも良いことに変化する可能性を秘めている。消防職員協議会活動をおおして職場環境が良くなることは、自分、家族、住民サービスの向上に必ず繋がっていく。また、何か問題が

起きた時にそれを取り除くのが消防職員協議会の役割である。ともに前進していくことをお願いする」と述べ、講座を締めくくった。

講師陣

- 【講座Ⅰ 組織強化・拡大】九州ブロック幹事 岡大祐
- 【講座Ⅱ 労働安全衛生】近畿ブロック幹事 長谷部寛
- 【講座Ⅲ 賃金・労働条件】東北ブロック幹事 石黒和久
- 【講座Ⅳ 財政】中国ブロック幹事 西尾基貴
- 【講座Ⅴ 男女平等参画】四国ブロック幹事 山端孝明
- 【講座Ⅵ 国際連帯】全消協事務局次長 川北研人





2023年度 ジェンダー平等セミナー



2022年10月28日(金)・29日(土)の2日間、PSI-JC2023年度ジェンダー平等セミナー(旧:男女平等セミナー)が東京都千代田区「主婦会館プラザエフ」にて開催された。約3年ぶりとなる参加にZoom・YouTube配信を兼ねたハイブリッド開催であった。PSI-JC各加盟組合から対面63人・Web配信59人の計122人が参加し、講演部分については期限付きで後日YouTube配信が実施された。

本セミナーは①PSIのジェンダー(男女平等)の課題について理解を深め、ジェンダー平等社会の実現をめざすこと、②「ジェンダー平等と不妊治療(休暇)」について学び、各加盟組合の労働運動へ活かしていくために、情報交換、意見交換や交流をすることを目標に開催された。企画運営はPSI-JC女性・ユースネットワーク委員が行い、全消協からは吉永女性代表・永楽ユース代表が委員として参加。全消協女性連絡会から1名・全消協ユース部から5名・全消協会員から20名がセミナーを受講した。

初日は開会、主催者代表あいさつ、PSI・PSI-JCの紹介が実施された後、男性の育児休暇に関する講演「笑って考えるワークライフバランス」が東京大学大学院総合文化研究科教授・瀬地山角氏より実施された。講演後のグループワークでは「男性の育児休暇取得促進のためには休暇取得をしやすい職場環境の構築が必須である。そのためには組合・協議会活動が必須である」との意見や「忌引きの際には休暇を取得する事は標準化されている。しかし、なぜ重大なライフイベントである子どもの出生時には休暇が取得されていないのか」という意見がみられ、今後の男性育児参画に関する必要性を共有した。

2日目は不妊治療(休暇)・女性の身体変化に関わる講演「健康で自身のライフプランを実現しながら働き続けるためにできることは？」が医療法人社団向日葵まつしま病院助産師・幸崎若菜氏より実施された。講演後のグループワークでは「管理者と労働者が共に不妊治療休暇制度を理解し、積極的に休暇申請が可能となるよう日頃のコミュニケーション構築が必要だ」との意見や「女性の更年期障害については認知されているが、男性にも更年期障害はある。その点についても広く認知されるべきだ」との意見がみられ、不妊治療に関する知識・不妊治療休暇制度・女性の身体変化や月経についての知識共有が実施された。最後にPSI-JC榎本事務局長から2日間の総括が行われ、セミナーは閉会となった。

今セミナーで構築されたPSI-JC各加盟組合女性・ユース間交流を活かし、消防職場がジェンダー平等かつ働きやすい環境となるよう自治労や全水道など国内での連携を引き続き進めていく。今後実施を予定する全消協女性連絡会・ユース部合同セミナー・ユースStePUUPセミナーではジェンダー平等セミナーでの経験を活かし、全消協会員へ向け知識の共有を実施していく。

(作成:ユース代表 永楽)

新規単協の結成

北後志消防職員協議会



北後志地方は、北海道の西部、道都札幌より西へ北海道開拓の拠点として栄えた小樽市を経て、車で1時間弱の距離に位置し、海・山・川等美しい自然に恵まれた環境にある。また、中心部にある余市町は、

積丹半島と二セコへ向かう国道の起点となる交通の要衝であり、町を流れる余市川は北限の鮎が生息

する場所として知られ、その清流から成る豊かな土壌は、北海道一のリンゴ・ブドウの生産地となっている。さらに、ニッカウヰスキー発祥の地であり、2014年からNHKで放映された連続テレビ小説「マッサン」のロケ地として全国的に知名度が上がり、民謡「ソーラン節」の発祥の地とされているなど、国指定の史跡を数多く有し、四季を通じ多くの観光客が訪れる地です。

北後志消防組合は余市町、仁木町、古平町、積丹町、赤井川村の4町1村で構成されている。北後志消防職員協議会は2022年9月21日に余市消防署職員内の現会員9名で結成した。

結成に至るまで、コロナ禍ということもあり、約3年の月日がかった。時には心が折れそうな時もありましたが、全消協をはじめ、道消協及び札幌地方ブロック消防協、各単協、並びに自治労北海道本部はじめ自治労関係者の皆様に支えられ何とか結成することができた。皆様の多大なるご支援・ご協力、誠にありがとうございました。さらに、当協議会結成時には全国各地から激励のメッセージをいただき、会員一同心より感謝申し上げます。

北後志消防職員協議会がめざすものは対立ではなく、共存してお互いの尊重です。その目標の下、組合内の協議会会員増、職務環境

問題、ハラスメント問題等、課題は山積していますが、職場内の仲間を誰一人見捨てることなく一丸となつて一つ一つ問題に取り組み解決をしていきたいと思つています。さらには、全国の消防協の仲間との連携を強化し、新しい知識技術を職場内に反映させ、住民サービスに繋がるよう日々研鑽していく所存です。

まだまだ未熟な組織ではありますが、よりよい職場づくりが消防行政サービスの向上につながるという意識を忘れず、少しずつですが協議会活動に取り組みたいと考えています。皆様、今後とも何卒ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

- 今後の予定
- 2023年2月9日 単協代表者会議 (東京都)
 - 2023年2月15・16日 第1回女性連絡会ユース部合同セミナー (大阪府)
 - 2023年3月16日(ウェブ)・17日(東京都) 第5回ユースStep Upセミナー



「インクルージョン」 「クリティカルマス」

日々の回りの人や自分のことを気遣える世の中になつていふと感ずる。今までは現象の名前や単語を知らず、その領域について知らなかったことでも、初めて聞く単語は人々の興味を引き深い知識を得ようとする好奇心をかきたてるものなのかもしれない。今までなんと表現してよいか分からなかったものに名前があつたと知つた時、腑に落ち安心する、ということもあつるかと思ふし、現象やバイアスがあることを理解しておくことはとても重要である。新しい言葉を知ることにより共感や理解を呼び、新しいコミュニティや様々な取り組みに繋げられており、

日々変化がみられている。消防業務の中で広報や啓発運動などの講話では、市民の理解及び協力を得るためにはどのような説明がよいだろうかと考えることがある。日頃の消協活動も同じで、興味を引きながら学習し、うまく言葉に落とし込み、表現するためにはどうしたらよいか。意見を伝えるにはどのようなニュアンスが一番適正なのかと迷つこともある。さらに、新しい言語を使用する際や知らない領域に足を踏み入れる時や相手を知るときには、適正な言葉で、謙遜や過小評価せずコミュニケーションをとっていきたく感じることが多くなった。それは、意見交換や協議の場を全消協で経験させていた中で、言葉の表現に感じている。言葉の表現では相手を傷つけない

ともあれば、周囲を不快にすることも考えられるが、それならば言わずにおこうとが無関心・不干涉にならず、皆で取り組んでいけるよう心掛けていきたい。

女性連絡会としては第31回定期総会で創設し、15年が経過した。女性交流会にご参加いただいた参加者の方も消防歴・年齢様々となり、学びが多く得られ、課題や悩みも様々であると感じる。女性特有というより、性別に関わらず改善した方がよいと感じることもあれば、ジェンダーの観点・人権という観点からも深く考える必要があることは多くある。今後も女性連絡会だけでなく、全消協へも橋渡ししながらさらに活動を深めていきたい。

吉永紗弓(女性連絡会代表)

全消協ではホームページのほか、Facebook・Twitter・Instagramを開設しています！

全消協ホームページがリニューアルしました